

2011年度 日本草地学会若手の会夏合宿開催報告

日本草地学会若手の会夏合宿（第4回）が、2011年9月17、18日（土、日）に広島大学（広島県東広島市）において開催されました。「中国地方における草地の保全と持続的利用に向けた取り組み」をテーマとし、草地畜産に興味をもつ若手研究者や学生を中心に33名が参加しました。

1日目 9月16日（土）

13:00 広島大学生物生産学部 集合・受付

13:30-14:00 開会式

- 1) 開会宣言
- 2) 若手の会開催にあたって 広島大学大学院 谷口幸三氏
- 3) 事務連絡および諸注意 広島大学大学院 黒川勇三会員

14:00-17:00 セミナー

- 1) 広域連携周年放牧のLCAによる環境影響評価
(近畿中国四国農業研究センター、堤道生会員)
- 2) 大山隠岐国立公園大山蒜山地域奥大山地区を事例とした自然公園の植生計画の策定および二次草原の現状と保全に向けた課題
(鳥取大学大学院、千布拓生氏)
- 3) 曲げセンサーを用いた放牧牛のそしゃくモニタリング
(広島県立総合技術研究所、新出昭吾会員)
- 4) ラジコン飛行機による可視・近赤外の空撮について
(広島県立総合技術研究所、弓場憲生氏)
- 5) 自律型飛行ラジコンヘリ Falcon の紹介
(BIZWORKS社、吉田貴樹氏)

18:00 - 懇親会

2日目 9月17日（日）

8:30 集合

8:30-12:00 広島大学附属農場（西条ステーション）見学

- 1) 「牛への咀嚼センサー取り付けデモ」
- 2) 「グライダーによる放牧草地リモートセンシングデモ」
- 3) 「ラジコンヘリによる放牧草地のリモートセンシングデモ」

12:00-13:00 昼食

13:00-13:30 閉会式 解散

1日目は、広島大学生物生産学部において、5名の講演者から話題を提供していただき、セミナーを開催しました（写真1）。本セミナーを通じて、農研機構及び県の研究所、大学や民間企業と幅広い視点から取り組んでいる中国地方に

における草地畜産研究についての知見を深めることができました。

セミナー後は、八代田真人会員（岐阜大学応用生物科学部）から、若手の会による東日本大震災への復興支援に関する報告が行われました。引き続き、草地学会企画委員の川村健介会員（広島大学大学院国際協力研究科）より、学生が参加しやすい定期大会開催時期を検討するため、若手会員および学生からの意見が求められ、議論の上、意見集約を行いました。懇親会では、若手同士忌憚のない意見交換が行われ、交流を深めることができました（写真2）。



写真1 セミナー開催



写真2 懇親会

2日目は、広島大学附属農場（西条ステーション）において、弓場氏（広島県立総合技術研究所西部工業センター）と吉田氏（BIZWORKS 社）から、ラジコン飛行機及びラジコンヘリによる放牧草地リモートセンシングについて、それぞれ実演を交えて説明が行われました（写真3）。引き続き、新出会員（広島県立総合技術研究所畜産技術センター）により、曲げセンサーを装着した牛のそしゃく行動のリアルタイムモニタリングの実演と説明が行われ、その後、広島大学農場を見学しながら黒川会員（広島大学大学院生物圏科学研究科）および川村会員から施設（搾乳ロボットおよび自動給餌装置など）について説明が行われました（写真4）。台風の影響が心配されましたが、風雨の影響はなく、若手の会夏合宿は盛会のうちに終了しました（写真5）。



写真3 ラジコン飛行機の実演



写真4 自動給餌装置の見学



写真5 夏合宿終了後の集合写真

最後に、今回の若手の会夏合宿開催に際し、皆様よりお志や差し入れをいただき、事務局一同感謝申し上げます。また、夏合宿開催を受け入れ、企画からご尽力いただきました黒川勇三会員、川村健介会員を始め、広島大学の皆様にもこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

(日本草地学会若手の会事務局)